報告様式　２－Ⅰ　　令和６年度　長与町学校評価（共通の評価項目）報告書

長与町立長与中学校

Ⅰ　共通項目

基本目標　　心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容 （必須…町内共通項目）	評価 (最高４)	分析及び改善策 （○…成果、●…課題）
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	Ⅰ　豊かな心の育成 ①いじめ、不登校への適切な対応（必須）	３．８	○いじめについては、主幹教諭（生徒指導主事）と各学年生徒指導担当教員が中心となり、生徒に寄り添った対応に努めてきた。方針決定後は、関係学年職員が一体となって対応に当たり、解決後の見守りも情報共有を図るなど特に丁寧に行った。
	②道徳教育の充実、人権教育の推進	３．３	○道徳教育は、道徳教育推進教師を中心に、各学年輪番制で取り組んできた。全教員で取り組むことで、高い意識で授業づくりを進めることができた。 ○今年度から「平和学習・人権学習」は、生徒会担当教員が担当し、より生徒が主体的に取り組めるよう進めてきた。人権集会では、生徒が自分事ととらえ、自分の考えを表現する場面が多く見られた。
	③生徒による目標設定と達成努力	２．９	○体育大会、修学旅行、合唱コンクール等、大きな行事を節目として、回を増すごとに、生徒が主体的に活動に取り組むことができるようになった。特に合唱コンクールにおいては、更なる豊かな表現の追求に向け、教師の手を借りることも減り、自分たちで切磋琢磨する姿が見られるようになった。
	２　基礎学力の充実 ①分かる授業の実施	３．６	○めあてとまとめの提示、TT 指導による複数体制、ICT 機器の活用等を通して、生徒の実態を踏まえた指導に当たることができた。 ●学習への苦手意識がある生徒の基礎・基本の定着が本校の課題である。授業態度は総じて良好であるものの、既習事項の定着まで至らない生徒が一定数いる。めあてとまとめの提示の徹底、ICT 機器や班・ペア等の授業形態の工夫を図るなど更なる改善を図っている。
	②家庭学習の習慣化	２．７	●定期テスト前に比べ、日常の家庭学習は少なく安定した取組とは言い難い。生徒自ら、見通しをもって学習に取り組む「自己調整力の育成」を図る必要がある。家庭への協力も促したい。
	③キャリア教育の充実	３．０	○継続したキャリアパスポートの活用を通して、生徒自身がこれまでの振り返り、今後の展望を描く姿勢づくりを進めることができた。
	３　健康安全教育の推進 ①基本的生活習慣の確立	２．９	●時間や提出期限厳守、地域の方へのあいさつはやや課題がある。一方で登下校時のマナー・態度は以前に比べ改善している。
	②健康・体力の維持・増進	３．３	○インフルエンザ等の感染予防のためのマスク着用や手洗いなど、健康管理への意識は高い。
	③生徒の危機管理意識の高揚 （食物アレルギー、メディア安全等）	３．７	○給食担当・学級担任・管理職で複数チェックを徹底し食物アレルギーに関する事故の未然防止に努めた。当該生徒自身の自己管理の徹底にも引き続き取り組む。

			●タブレット端末の使用法や家庭での SNS の利用は、適切な活用ができているとは言い難い。年度途中 10 月から、毎月 1 回テーマを決め、情報モラル教育に全校で取り組んでいる。
	4　特別支援教育の充実 ①一人ひとりのニーズに応じた支援（必須） ②生徒の困り感の解消	3．4 3．4	○特別支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを中心に困り感のある生徒への適切な支援について、情報共有・具体的な支援の在り方について協議することができた。 ○SC や関係機関、放課後デーサービス事業所等、迅速かつ綿密な連携を図ることができた。
	5　国際化への対応 ①日本文化や地域への理解 ②コミュニケーション力の育成 ③グローバルな視野の育成	2．7 3．0 2．5	○総合的な学習「ふるさとキャリア教育」の体験を通して、地域の歴史や文化に触れる機会を設けている。地域のよさや抱える課題への理解を深めることができている。 ●1 年生において、多くの ALT（外国語指導助手）と触れあう NICE（英語による長与町国際コミュニケーション活動）が実施できた。一方で、全体を通して受け身な面もあり、表現活動の工夫が必要である。
	6　教育環境の整備 ①学習環境の整備 ②ＩＣＴ機器の活用、情報の発信	2．8 3．7	○老朽化に伴う修繕は年間を通して行った。日頃より、安全面の視点からチェックするよう、全職員で心がけている。 ○授業だけでなく、学校生活のあらゆる場面で活用することができている。それによる速やかな情報の共有化、データ活用の効率化を図ることができている。
	7　教職員の資質向上 ①指導力の向上（必須） ②服務規律の遵守 ③「教職員の働き方改革」に基づく風通しの良い職場づくり	3．6 3．7 3．4	○研究主任を中心に、授業改善、指導力の向上に年間を通じて、全職員で取り組むことができた。1 月には、各チーム実践発表会を実施した。互いの授業の開き合い、年間を通した保護者の授業参観等、風通しの良い環境整備ができている。 ○夏季休業中に、外部講師を招いての「人権感覚を高めるための校内研修」実施を皮切りに、全職員で一丸となって推進することができた。 ○月 80 時間以上の超過勤務者は 0 名。引き続き、45 時間以内を目指していく。日頃から学年職員の連携ができており、支え合い・助け合いの意識が高い。

報告様式　２－２

２　自己評価のまとめ（成果・課題等）

（１）成果

①生徒の変容

「置かれた場所で咲く努力」を全校生徒・職員の合言葉として、所属する集団（学級・部活動等）で自分の良さに気づき、その良さを発揮できる学校生活を送ることを意識させてきた。一部、学校生活になじむことが苦手な生徒はいるが、日々の学校生活、各種行事等において、仲間と協同しながら、過ごす姿が多く見られた。時間が過ぎるにつれ、規範意識の向上・善悪の判断・授業への集中等が、どの学年にも見られるようになり、それに伴い。問題行動等も減少した。

②学力向上

県・国の学力調査においては、平均を上回っているものの、依然として、学力の二極化が本校の課題である。その中で、昨年度に続き、生徒自らが自分で学ぶ態度育成に向けた改善策に取り組むことができた。評価基準表の配付、ながよ検定プレテスト実施とその後のコース別学習に取り組んだ。今後も、この成果を基盤にして、次年度も実施可能なところから、生徒の学ぶ意欲態度育成に取り組んでいく。併せて、家庭の協力を得ながら、家庭学習の充実を図っていく。

③教職員の資質向上・風通しのよい職場環境

年度途中での職員の欠員が続いた中で、学年主任を中心に学年職員がチームとしてまとまり、支え合い・助け合う良好な関係が構築されていた。互いの体調を気遣い、多忙な職員がいれば、それを皆で助け合う雰囲気が醸成されている。

（２）課題等

①不登校支援

昨年度に比べ、減少傾向にあるものの、不登校傾向・別室登校の生徒がおり、関係機関と綿密な連携を図りながら、対応に努めている。教職員に加え、スクールカウンセラー、相談員、支援員等の複数体制で対応に日々当たることで、部分登校・リモートによる授業参加等、できるところから学校・学級、授業に関わろうとする兆しが、個々に見られるようになった。今後も、その生徒にあった「つながり」を意識し、短・中期的な取組と、長期的な見通しを持ちながら、確実な対応を進めていく。

②家庭学習・提出物

定期テストの時期は、多くの生徒が学習に向かう姿勢の高まりを示すものの、「家庭学習の取組・提出期限を守る」については、個人差が大きい。「見通しを立てる。計画的に取り組む。持ち物を自分で管理する」といった面について、家庭との連携を図りながら、定着させていく必要がある。特に、学習面においては、前述の「主体的な態度の育成」の充実が不可欠である。「行きたい高校に合格する」という目的だけではなく、「何のために学ぶのか」といった「学ぶことの意義」を理解するとともに、「達成したい目標に向け、何をどのようにすべきか」を「計画・実行」できる態度の育成が必要と捉えている。

③規範意識（SNS 等）

年度前半に比べ、これらのトラブルも減少した。ただ、生徒個人の認識の差や家庭との連携については、今後も対応に向けた努力が必要である。子どもを被害者にも加害者にもしないため、引き続き、学校全体で毎月の情報モラル教育に取り組み、生徒自身が正しい判断力を身に付けることができるよう指導していく。併せて、保護者に対しても、各家庭において、子どもとの対話を通じて、確かな判断力と行動力、自制心の育成への協力を促していく。

3　学校関係者評価　＊令和６年２月８日に、学校支援会議（学校評議員会）の中で実施

・本校自己評価については、特に異論や質問等もなく、妥当との判断をいただいたと捉えている。
・評議員の皆様から、以下の質問や意見をいただいた。
　① グローバルな視野の育成とは何を求めているのか。
　② 学校でおこる SNS をめぐる問題とはどのようなものか。
　③ 特別支援教育について、小学校と中学校では支援の在り方について違いがあると思うが実際はどうか。
　④ 年間を通じた学校訪問・授業参観を実施したが、訪問者数はどれくらいか。
　⑤ 三者面談について、進路希望の確認だけではなく、今後どのような力を身に着けばよいかといった個に寄り添った助言・励ましをしてほしい。
　⑥ スクールカウンセラーの保護者向けの研修会の実施。
　⑦ いじめ対策委員会のメンバーに外部の人は入っているか。
　⑧ 今年度おきたいじめについて、解決後の状況はどのような様子か。学校の見守りはどうか？

本校が年間を通じて、課題として挙げた「SNS をめぐる問題」のほか、「いじめ問題」等への本校の対応について、まだ十分に周知できていないことが明らかとなった。本校の対応の見える化をより一層図り、信頼関係の構築に努めていく。

加えて、「学力向上」「家庭学習の定着」等の課題は、本校の年間を通じた取組について、一定の理解いただいたが、解決には十分にいたっていないことから、次年度もその進捗状況については丁寧な説明と、家庭でできることへの協力を促していく。

4　対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

□学力向上について

学力調査の結果等を根拠に進める授業改善や、見通しをもって学習に取り組む生徒の育成、家庭学習の充実に向けた家庭の協力等、一体となった取組を進めていく。

さらに、引き続き、年間を通じた授業公開を行い、保護者にも直接、生徒・教職員の姿を参観していただくことで、その成果について共有を図っていく。授業改善については、主体的に学ぶ生徒に育成、個別最適な学びと協働的な学び、指導と評価の一体化、教育 DX の推進と、今年度の成果と課題を踏まえ、さらに全職員一体となった実践を進めていく。

□SNS 等をめぐる対応について

生徒自身に、正しい知識と確かな判断力を身に着けさせるために、毎月１回の情報モラル教育は継続していく。SNS をめぐる問題や相談件数の減少から、家庭の協力も随分定着していると判断するが、使用時間や適切な使用については、まだ改善の余地があると捉えている。生徒同様、学年学級 PTA 等の機会を活用しながら、さらにもう一歩踏み込んだ啓発活動を進めていく。

□さらに信頼される学校を目指して

キーワードは「誇りと責任」。教職員の一歩踏み込んだ働き方改革の追求、同僚職員との協働性の高い職場づくり等を通じて、自らの働き方と勤務校に「誇り」を持つこと。さらには、教科指導・生徒指導・進路指導等、あらゆる場面において、風通しがよく、誠実で「責任」ある対応に、全職員一丸となって取り組むことで、さらに信頼される学校を目指していく。

【留意点】

評価は、自己評価をもとに学校関係者評価にも十分配慮し、総合的に判断し記入する。
評価は４段階とし、以下による。

４　十分達成できている	３　概ね達成できている
２　どちらかというと達成できていない	１　ほとんど達成できていない